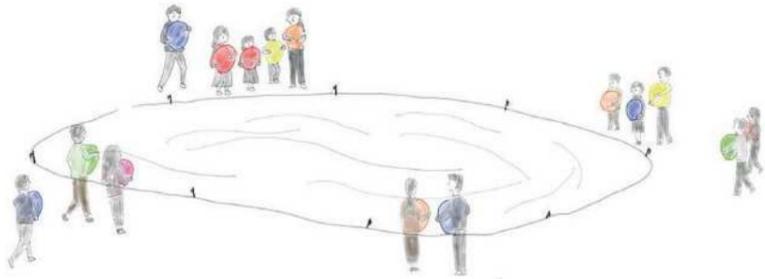


【第8回 最優秀賞受賞作品】

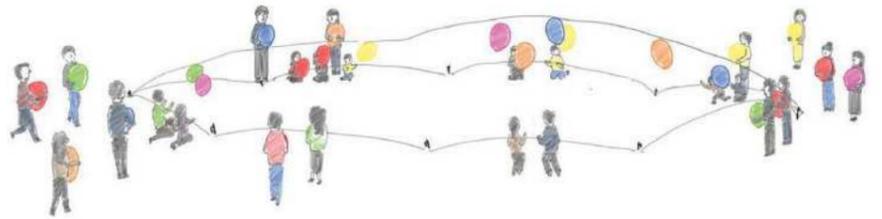


震災の語り部のための極薄布を用いたシェルターの提案

風船で布を浮かせ、人と人が語り合うための空間とストラクチャーを提案します。
くもつぶとは、雲を構成する微小な水滴や氷の結晶のことで、様々な思いが込められた風船が、くもつぶのように集まることで一つの大きな語り場という雲が生まれる意味をこめました。震災の追悼の意と訪れる人々の思いを風船にとらえ、それぞれが浮かび上がり、集まることで一つの空間をつくります。



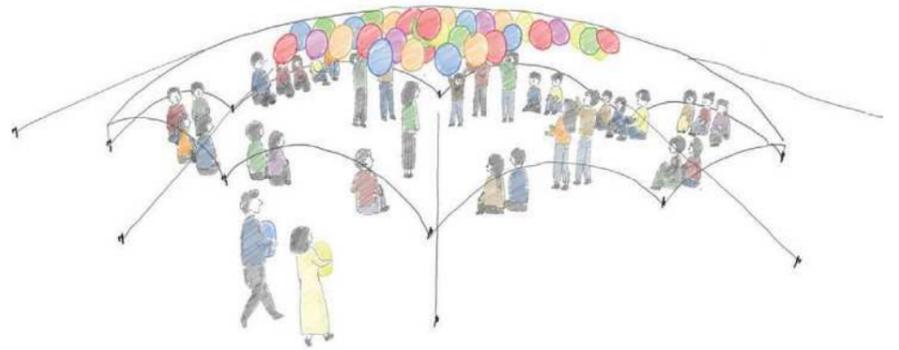
flow1
語り場に訪れる人が集まる。
それぞれの震災の追悼や一人一人の思いが2つや3つの色のある風船となり、空間を広げていく。



flow2
人が集まってくると、膜の中に人それぞれの色のある風船を入れていき、ヘリウムの浮力によって語り部の空間が生まれ、様々な考えを持つ人との交流が生まれる。



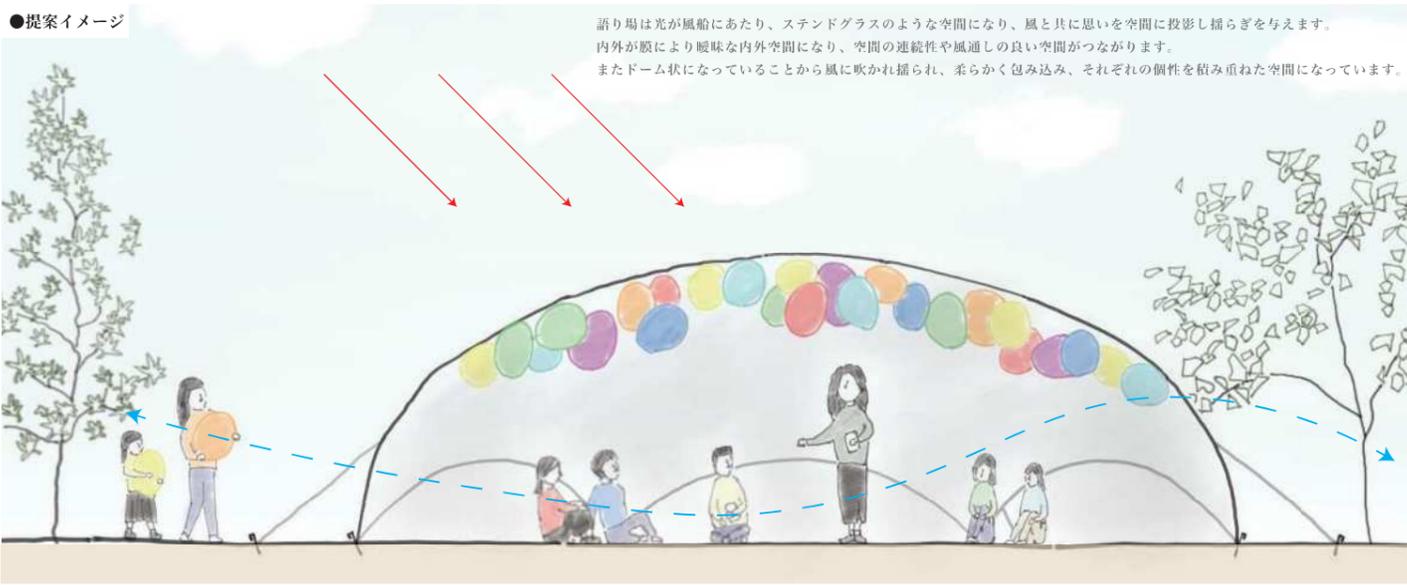
flow3
語り部が終わると人々の思いが詰まった風船は空へ飛んでいき、新たな気づきや交流を経て、語り場が次の場所へと移動して行く様や、この体験から語り部がさらに広がっていくことを願います。



flow4
人が集まり風船が空間上部に溜まると語り場ができ、語り部が始まります。ドーム状になり、参加者は地べたに座り、語り部を囲うように参加者が語り部の体験をします。

仮設的かつ人数によって規模を変え様々な場所につくりことができるような可変性のある空間を、これからの語り場のあり方として提案します。
今回の語り場は薄い膜とカラフルな風船という、それぞれの思いが重なっており、風に吹かれ揺られるほどのはかなさを持ち、やわらかく人々を包み込むような、みんなの語り場として利用されると考えます。語り部は、たくさんの経験や人との出会いにあふれています。それらの経験や出会いが積み重なって、一人一人の人生を気軽に語り合える場をつくり、自分とは異なる価値観や人生観を知り、新たな気づきや交流が生まれたりすることで、地域で新たな一歩を踏み出す勇気や希望を増やしていく場として考えます。

提案イメージ



語り場は光が風船にあたり、ステンドグラスのような空間になり、風と共に思いを空間に投影し揺らぎを与えます。内外が膜により曖昧な内外空間になり、空間の連続性や風通しの良い空間につながります。またドーム状になっていることから風に吹かれ揺られ、柔らかに包み込み、それぞれの個性を積み重ねた空間になっています。

模型尺
1 : 5.0

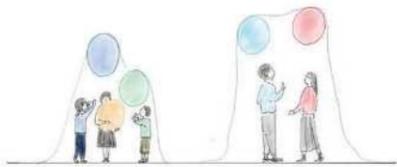


模型尺
1 : 1



一つ一つの思いが、空間をかたち作る。

誰かと誰かが語り合う場としてのストラクチャーを提案します。



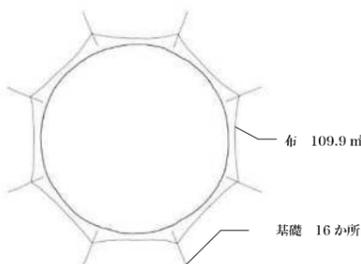
模型尺
1 : 1



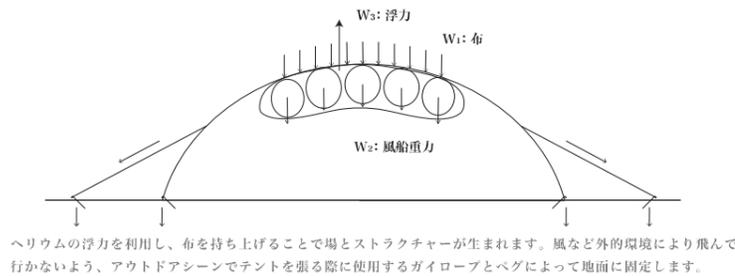
諸条件

- 条件
- 人数:
参加者 50 人 + 語り部 2 人 = 52 人
- 風船数:
52x3(一人当たり3ヶ) = 156 個
- 面積:
布 109.9 m²
基礎 16ヶ所

平面計画



断面計画



可搬性



全重量 13kg と軽量なため、可搬性が良く、語り場を移動できます。

重量: 布 (スーパーオルガンザ) 8g/m ² 布面積 (半球状の70%として) 157 m ² × 0.7 = 109.9 m ² (5 × 5 × 3.14 × 4 × 1/2)	W1 ■ 布の重量 109.9 m ² × 8g/m ² = 879.2g (等分布)	浮力: W3 ■ 風船: ヘリウム 28L/個 ヘリウムによる浮力 1.2g/L × 28L = 33.6g/個 (浮力) 33.6g/個 × 156個 = 5,241.6g	基礎引き抜き耐力: Pg ■ 70kg/個 × 8個 = 560kg	Q 布は浮か? そして飛んでいかないか? ・ W1+W2 [2,127g] < W3 [5,241g] OK ・ W3 < Pg OK
---	---	---	------------------------------------	---